

創立30周年記念式典 式辞

本日は、本校の創立30周年記念式典に、
鯖江市長 牧野百男 様、
福井県議会議員 田村康夫 様、
鯖江市議会議員 玉邑哲雄 様、
鯖江市教育委員会教育長 辻川哲也 様
をはじめ、多数のご来賓の皆様のご臨席を賜り、このように盛大に催しできますことに、心より厚く御礼申し上げます。

さて、本校は昭和63年に、児童数1000名を超えていた惜陰小学校のマンモス化解消のため、児童数460名 16学級職員26名で出発し、30年という歴史を積み重ねて参りました。この間に、本校を卒業されました卒業生は1757名を数え、現在様々な立場でご活躍されています。

進徳小学校の名前は、江戸時代の越前国鯖江藩の藩校の名前「進徳館」に由来します。
当時の鯖江藩6代藩主 間部詮允（あきさね）公が学問や教育に力を入れるために開設した藩の学校が、次の7代藩主 間部詮勝（あきかつ）公によって「進徳館」と改名されました。このように「進徳」という本校の名前は、鯖江に縁（ゆかり）があり大変歴史のある学校名です。

また、進徳小学校の校歌は有名で、作詞は日本を代表する詩人・谷川俊太郎さん、作曲は数々の受賞歴に輝く服部公一さんの名コンビによって作られました。ほとんどひらがなでわかりやすく、曲のテンポが軽く、堅苦しいイメージではなく、愛唱歌として口ずさみたくなるようなユニークかつ自由に元気がでるような歌です。当時から斬新な校歌でした。校歌制定に携わったPTAや先生方の思いも盛り込まれています。お陰様で、進徳小学校の子どもたちはいつも校歌を明るく元気に、体をいっぱい使って歌っています。

進徳小学校は、この30年、地域と共にしっかりと歩んで参りました。地域の皆様と絆を深め、地域とともに学校創りを進めております。開校以来、30年という時を積み重ねる中で、地域の皆様方が、PTAの皆様方が、歴代の校長先生方をはじめとする教職員の方々が、まさに一丸となって進徳小学校の教育を進めて来られました。その熱き思いと情熱、ご努力には頭が下がる思いであります。

私はこの4月にこの進徳小学校に着任したばかりで、たった半年ではありますが、本校が地域や保護者の方々と熱き思いを持ちながら、共に歩む姿を目の当たりにし、30年という歴史の中には皆様方の思いが大きく詰まっており、その重さに感じ入り胸が熱くなるものがあります。本校に教育支援として活動していただいている見守り隊を始めとした学校支援ボランティア等は、毎年100名を超える皆様にご協力いただいております。本当に、地域の皆様の思いに支えられた学校であることを強く感じるところです。

この30周年はこれからの本校のさらなる飛躍につながる節目であります。教育とは、未来を創る仕事であります。今という時をしっかりと見つめ、素晴らしい未来を創るということを、この30周年記念行事を通して、大きく感じているところです。時は移り、人は変わっても本校のすばらしい伝統は、地域を始めとするたくさんの方々の熱意に支えられながら、今後も更に創造、発展し、充実を遂げていくことであろうと確信します。

今後とも、進徳小学校のために、より一層のご指導、ご鞭撻、ご協力をお願いし、また、本日もご参会いただききましたことに心からの感謝を込め、私の式辞といたします。

平成30年10月20日

鯖江市進徳小学校長 徳橋輝夫